

|   |  |     |    |     |   |     |   |
|---|--|-----|----|-----|---|-----|---|
| 科目の種類   | 必修   | 科目名 | 古典 | 学 年 | 2 | 単位数 | 3 |
| コ ー ス   | 文系進学コース B                                      |     |    |     |   |     |   |
| 教 科 書   | 大修館書店『古典 1』                                    |     |    |     |   |     |   |
| 副 教 材   | 第一学習社『対訳古典文法』 浜島書店『最新国語便覧』<br>桐原書店『重要古文単語 315』 |     |    |     |   |     |   |
| <p>科目のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「古文」に親しみ、基本的な単語や文法事項を習得し、自分で現代語訳できるようにするとともに、平易な文章であれば大意を把握できるようにします。</li> <li>・「漢文」に親しみ、基本的な句法、よく用いられる字や語句を少しずつ習得し、平易な文章であれば大意を把握できるようにします。</li> </ul>   |  |     |    |     |   |     |   |
| <p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「用言の活用」「助詞」「助動詞」「係り結び」「敬語」「和歌の修辞法」など、古文を読むのに必要な項目を学びます。</li> <li>・「返り点」「返読文字」「再読文字」「反語」「使役」など、読解の基本となる句法や、「漢詩のきまり」を学びます。</li> <li>・単語や文法、句法については、小テスト等を実施し、基本事項の習得をめざします。</li> <li>・適宜プリント等の副教材を使用し、わかりやすく進めていきます。配布された教材は各自きちんと保管しておいてください。</li> <li>・教科書中の単元だけでなく問題集などを利用し、演習問題に取り組みます。基本力、応用力の定着を目指すだけでなく、より多くの作品に触れることで古典に親しみ、知識を増やします。</li> <li>・入試問題、過去問題などに取り組み、既習事項の定着を確認するとともに、より実践的な力と応用力を身につけられるようにします。</li> </ul> |  |     |    |     |   |     |   |
| <p>より良く学習を進めるためのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語や文法、句法の習得に際しては小テスト等を実施します。その場限りの学習にとどめず、各自で反復練習をして覚えるようにしましょう。</li> <li>・現代語訳を聞いて写しているだけでは力つきません。必ず自分で本文を読み、自分で考え、その日のうちに時間をとって復習しましょう。</li> <li>・基本事項は一度覚えただけでは本当の力にはなりません。覚えたことを日常の学習や試験等で活用して、はじめて力になります。音読や現代語訳の際に知識を総動員し、よく考えましょう。</li> <li>・定期試験、実力テスト、模擬試験等は、受けた後で必ず復習するように心がけましょう。</li> <li>・ノートやプリント課題等をしっかりと整理し、効率の良い勉強ができるよう心がけましょう。</li> </ul>  |  |     |    |     |   |     |   |
| <p>評価方法</p> <p>テストについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストの得点と小テストおよび提出物等による得点を加味して総合的に判断します。</li> </ul> <hr/> <p>平常点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・ノート・小テスト、普段の取り組みなどを平常点として加算します。</li> </ul>   |  |     |    |     |   |     |   |

| 学期            | 学 習 単 元  | 学 習 の 内 容 と ね ら い  |
|---------------|--|--|
| 前<br>期        | 1. 古文 説話<br>『沙石集』<br>「児の飴食ひたる事」 P 12<br>『今昔物語集』<br>「狼と母牛」 P 21<br>2. 漢文 故事成語<br>「漱石枕流」 P 173 | 1. 古文の基礎を確認します。繰り返し音読することで古文に対する親しみます。<br>・「用言」「助動詞」の復習をしながら、平易な説話を読んでみます。説話の構成パターンを意識して読みましょう。<br>・「ば」「ばや」など、口語訳に影響する助詞を学びます。<br>2. 訓読の知識を確認しながら、短い文章を読みます。<br>・「再読文字」を学び、書き下し文や口語訳に生かせるようにします。   |
|               | 第 1 回 定 期 考 査  | 3. 基本的な古文単語を記憶し、助動詞を中心とした文法事項の定着をめざします。<br>・和歌の修辞法について学びます。<br>・登場人物の言動に注目し、その思考を深く理解します。<br>4. 司馬遷『史記』の背景を学習し、有名な「鴻門之会」の場面を読みます。<br>・「再読文字」や「使役」「反語」の句法を学びます。<br>・中国の歴史書に触れ、さまざまな人間の劇的な生き方・考え方に注目します。<br>5. 和文の日記として現存最古のものとなる『土佐日記』を読みます。<br>・基本単語や助動詞等の知識を活用して、正確な口語訳ができるようにします。<br>・すでに『百人一首』等でおなじみの「阿倍仲麻呂」にまつわるエピソードを理解します。 |
| 後<br>期        | 第 2 回 定 期 考 査  | 6. 漢文 中国の史話<br>『史記』「項王の最期」<br>四面皆楚歌 P 205<br>7. 古文 随筆<br>『枕草子』<br>「二月つごもりごろに」 P 74<br>『徒然草』<br>「仁和寺にある法師」 P 28   |
|               | 第 3 回 定 期 考 査  | 6. 秦の滅亡と漢楚の興亡を理解したうえで作品を読解します。<br>・「詠嘆」「反語」「否定」などの句法を学びます。<br>・「拔山蓋世」の詩から、「項王」の心情と虞美人の悲劇について学びます。<br>7. 三大随筆にあげられる清少納言の『枕草子』と吉田兼好の『徒然草』を読みます。<br>・「音読」「単語」「文法」の確認、学習をし、基礎学力の向上をめざします。<br>・新たに「敬語」を学びます。<br>・宮中の生活を見る作者の観察眼に注目します。<br>・人物の動きや心情に注目して、筋を追って読み通します。   |
|               | 第 4 回 定 期 考 査  | 8. 漢文 漢詩<br>蘇軾「春夜」 杜甫「月夜」<br>李白「子夜呉歌」<br>9. 古文<br>『更級日記』 P 114   |
| 第 5 回 定 期 考 査 | 10. 古文 歴史物語<br>『大鏡』<br>「道真左遷」 P 95<br>11. 漢文 中国の思想<br>孟子「不忍人之心」 P 246                        | 10. 歴史物語の基礎を学び、平安時代の社会を具体的にイメージできるようにします。<br>・右大臣菅原道真と左大臣藤原時平との対立から、道真左遷に至る過程を読み取り、「紀伝体」の特徴を理解します。<br>・「助詞」「助動詞」はもちろん、「形容詞」「副詞」「敬語」にも注目して、的確に文脈を理解し、正確な口語訳ができるようにします。<br>11. 中国のさまざまな思想家の中から、「性善説」を唱えた「孟子」の文章を読みます。<br>・主な思想家とその思想について、簡単に整理して理解します。<br>・「再読文字」など、基本的な項目を意識しながら読みます。<br>・「孟子」が「性善説」をとる理由を読み取りましょう。               |